

住田林業を現地に見る

六月二十三日農学部山本信次先生の引率のもと三十二名のボランティアを乗せバスは一路住田町へ向かいました。

途上山本先生より森林・林業の現状について非常に解り易い講義を聞いて住田町役場に到着。早速町の産業振興課の福島さんから、町の林業の取組み状況の説明をうけました。住田町は各地で合併気運が活発な中敢えて自主独立を指向し、その達成の為大きな目標を掲げています。その一つが林業日本一を目指すことでした。昔から気仙杉や気仙大工の町として名を挙げ、林業技術なども含めた林業経営の礎が定着しており、耕地面積が僅か三%という逆境を逆手に森林林業立地をえらんだのでした。岩大ミュージアムに住田町林業のブースがありますが、町は昭和五十二年三月、林業振興計画の二十年プランを策定、この際元学長の船越先生がこれに関わり、更に平成五年の第二次十年プランで木材の生産、加工、流通の拡充計画を進めました。午後からは役場の近くに展開する木材加工団地を見学しました。先ず地元産の気仙杉を用いて



柱や板などに製材する協同組合さんりくランバーです。次にこの素材を元に丈夫で狂いのない柱や梁などに用いる集成材を産み出す三陸木材高次加工協同組合。三つ目は住宅注文者の設計に合った部材を加工する気仙プレカット事業協同組合。どの部門も省力化され効率的ラインが印象的でした。又廃材を活用しペレット燃料の製造や自家用乾燥設備の燃料として利用するなど、無駄のない対応が見られました。そして何よりも好感が持てたのは働く人の生き生きとした動作と笑顔でした。林業立地は極めて難しい状況ですが住田町の成功と発展を祈って帰路につきました。

上田の鐘 復活

私達がミュージアム本館を案内する際、最初のコーナーでボタンを押すと「花ふ、みたる桐の葉を・・・聞け大



学

(阿部)



平成17~18年度 ミュージアム来館者状況 () は前年度実績

月	個人	団体	合計
11	145 (89)	5組 135 (2/24)	280 (113)
12	55 (38)	2組 108 (3/50)	163 (88)
1	48 (30)	1組 12 (0)	60 (30)
2	50 (55)	5組 141 (0)	191 (55)
3	122 (90)	1組 45 (2/31)	167 (121)
4	201 (266)	5組 77 (1/50)	278 (316)
5	308 (329)	9組 530 (6/133)	838 (462)
6	291 (269)	18組 722 (20/592)	1013 (861)
計	1220 (1166)	46組1770 (34/880)	2990 (2046)



学

私とボランティア その1

老いを心豊かに



村上 シゲ

私は、解説ボランティアを決断するときにとっても不安で、自信もありませんでしたが皆様の意欲に接し、学ぶという事は何歳になってもできることだと思ひ、此の機会を下さいました大学に感謝しております。確か人間の体は六十兆個の細胞から出来ていて其の内、脳細胞は十四兆個と言われているそうです。一日に一億の細胞が減る一方で頭を使ったり体を動かしたりすることにより又新しい細胞が生まれるということ。何もしないと減るばかりで認知症にもなり易いと思ひます。ミュージアムに通うことは適當の運動と頭も使います。私は黙っていることが嫌いでスツフルームに居る時は昼食の時だけ、後は外に出て掃いたり草をとったりしています。時々は箒、鎌を置いて聞かれるままに案内し自分を高めています。人生にはそれぞれ生涯に一度の得がたい出会いがあると聞かれています。それは「一期一会」という言葉です。すべからず瞬間の人の触れ合いを大切にとの意味だろうと思ひ、お客様には笑顔が一番、梅干顔をひまわりの笑顔に変え頑張っています。三年目になって何とか解説が出来る様になりました。三期生の皆さんあせらず自分流のマニュアルを作って頑張ってください。